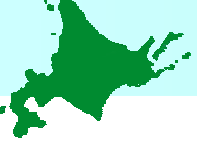


国土審議会北海道開発分科会
基本政策部会中間とりまとめ(素案)

第 章 第6期計画の点検について

計画の主要施策の進捗状況(データ集)



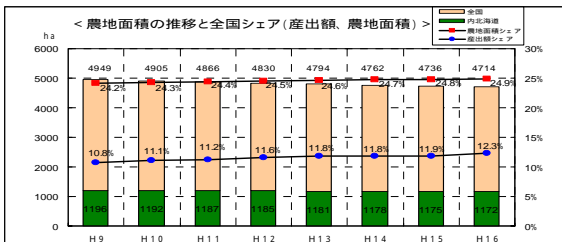
目 次

計画の主要施策の進捗状況	
1. 地球規模に視点を置いた食料基地の実現-----	1
2. 新たな成長期待産業の育成 -----	2
新たな成長期待産業の育成 -----	3
3. 北の国際交流圏の形成-----	4
4. 自然との共生-----	5
5. 環境保全機能の維持-----	6
6. 循環型社会の形成-----	7
7. 国民の多様な自己実現や交流の場の形成---	8
8. 安全でゆとりある生活の場の実現-----	9
9. 暮らしの多様な選択を実現するネットワーク -	10
暮らしの多様な選択を実現するネットワーク -	11
10. 安全な地域社会の実現-----	12

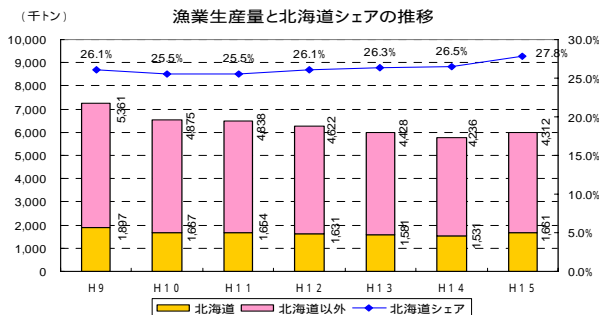
1. 地球規模に視点を置いた食料基地の実現

・安定的農水産物の生産、輸出の増加

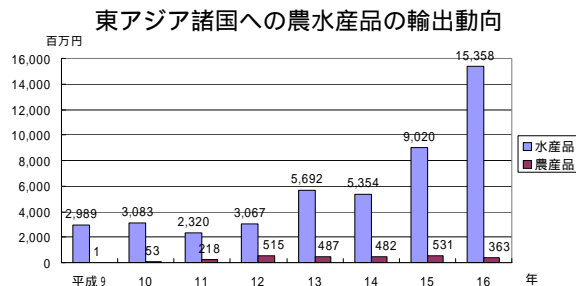
・クリーン農業等、安全や良食味などの消費者ニーズを踏まえた農水産物の生産、流通が増加



出典: 農林水産省「耕地及び作付面積統計」, 「北海道農林水産統計年報」



出典: 農林水産省「平成15年度 漁業・養殖業生産統計年報」



出典: 北海道経済部「北海道貿易統計」

農水産物等の輸出
北海道の食料品等輸出額の推移
H10: 7,775百万円 H16: 23,015百万円

* 安全・安心による水産物のブランド化事例

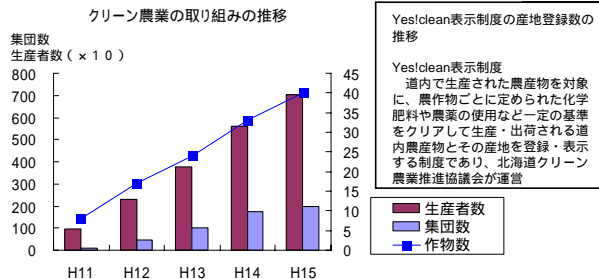


セリ後における加工場での秋サケの魚体温度測定

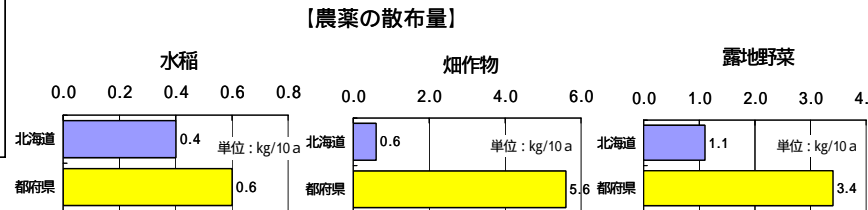


地域HACCPにおける認証シール

* クリーン農業への取組



出典: 北海道「第3次北海道長期総合計画 第3回推進状況報告書(平成17年2月)」



出典: 農林水産省「農業生産環境調査(H10年)」

消費者ニーズを踏まえた農水産物の生産

* 地域一体となった「江別小麦めん」の開発



パン適性などに優れた品種でありながら収量・品質が不安定なために作付けが増えずにいた「ハルユタカ」小麦について、江別型の初冬まき栽培技術を確認し、作付を拡大。

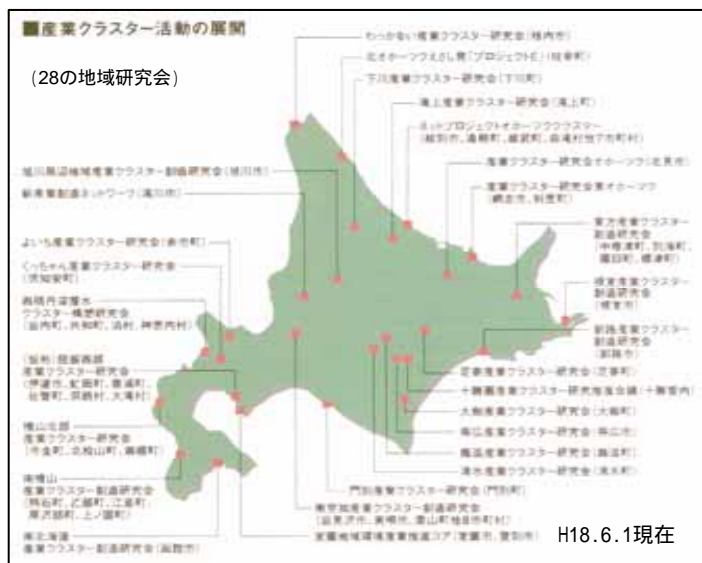
さらに小麦生産者、農業研究者、地元製粉会社・製麺会社はもとより、その他民間企業、大学、NPO法人が集まり、開発プロジェクトを立ち上げ、この地元ハルユタカを中心とした江別産小麦を使った「江別小麦めん」を開発。

平成16年4月より江別市内限定販売のブランド商品として販売を開始した。平成17年からは全国へ向けた商品展開を図っており、月産20万食、年間売り上げ3億2千万円を見込んでい

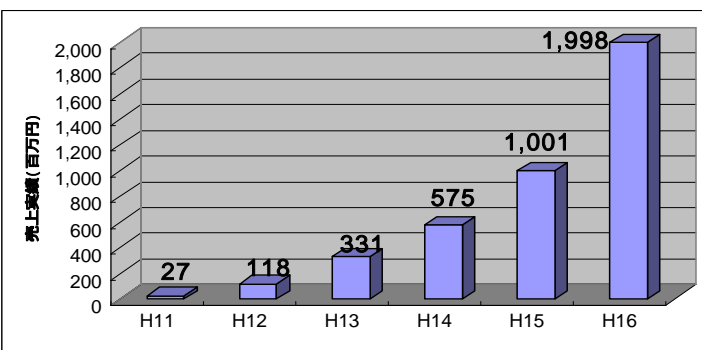
2. 新たな成長期待産業の育成

産業クラスターの形成に向けた取組みやIT産業、バイオ産業の育成に向けた取組みを実施

産業クラスター



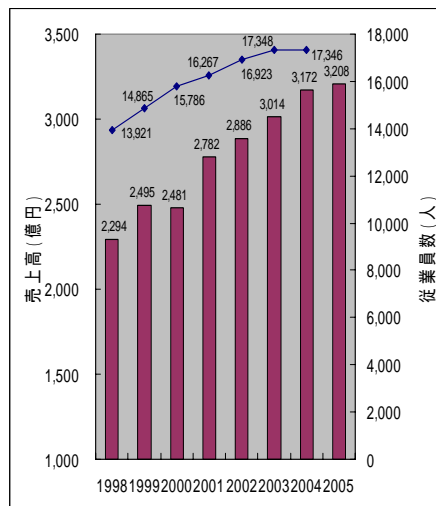
クラスタープロジェクト売上実績の推移



出典：(財)北海道科学技術総合振興センター「クラスターレポート2005」

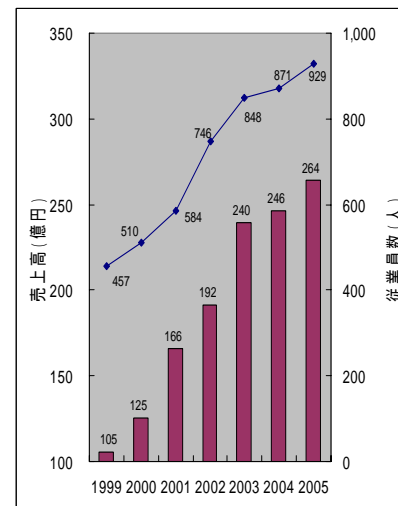
IT産業、バイオ産業

北海道情報産業の売上高・従業員数の推移



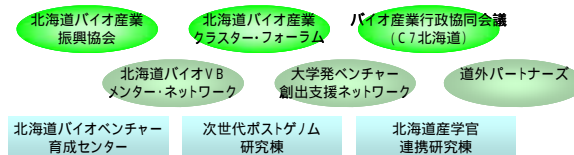
出典：北海道経済産業局「北海道ITレポート2005」

北海道バイオ産業の売上高・従業員数の推移

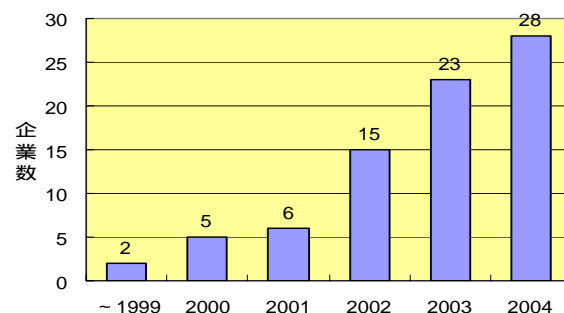


出典：北海道経済産業局「北海道バイオレポート2006」

北海道におけるバイオ分野の産学官連携組織は、目的・メンバーが異なる複数の組織が有機的に結びついている。また、研究施設等の整備も進んでいる。



北海道における大学発バイオベンチャー設立状況



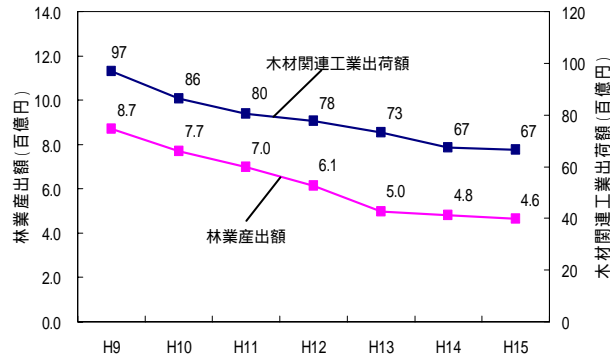
出典：北海道経済産業局「北海道バイオレポート2005」
経済産業省「大学発ベンチャーに関する基礎調査」

2. 新たな成長期待産業の育成

- ・ 林業産出額が減少しているものの、カラマツ資源を原料とした集成材等のニーズが急速に高まってきている
- ・ 苫小牧東部地域の用地分譲は進んでいない
- ・ 政府系金融機関による貸し渋り対策を実施したことにより、金融システムの安定化が図られた

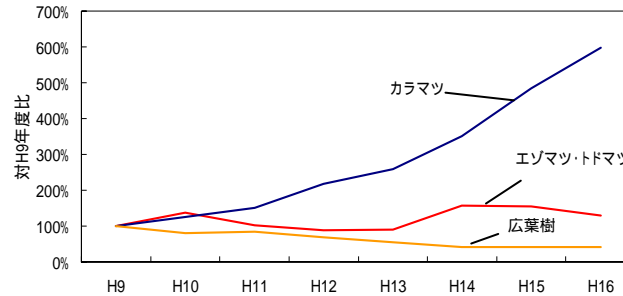
森林に関する産業

林業産出額と木材関連工業出荷額の推移



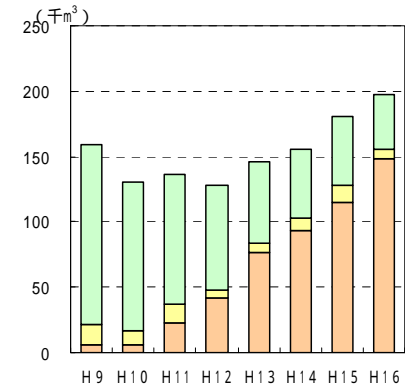
出典：農林水産省「生産林業所得統計報告書」、北海道「北海道林業統計」

集成材用原料消費量の推移



出典：北海道「平成16年度北海道集成材工場実態調査結果」

道産材の合板用丸太供給量



□ カラマツ □ その他針葉樹 □ 広葉樹

資料：北海道庁林業木材課調

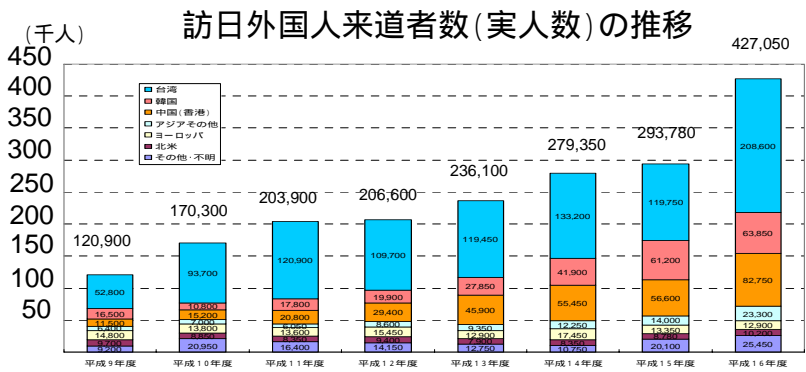
苫小牧東部地域の用地分譲実績 平成10年度以降の分譲実績

	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	合計
件数	2件	4件	7件	3件	3件	2件	5件	2件	20企業・機関
面積	33.8ha	27.2ha	51.8ha	7.7ha	6.8ha	31.3ha	7.5ha	18.2ha	184.3ha
内訳 (下線は ゾニ分譲)	A社 (0.4) 苫小牧港 管理組合 (33.4)	B社(0.7) 開発土木研 究所(23.4) 道路整備用 地(2件) (3.1)	C社(1.7) D社(0.2) E社(11.0) F社(9.0) G社(15.5) H社(2.5) I社(3.3) 内閣情報調査室 (8.7)	J社(0.7) I社(2.4) K社(4.5)	I社(4.1) L社(0.5) H社(2.2)	F社 (19.5) M社 (11.8)	J社(0.1) E社(2.0) 苫小牧河川事 務所(0.5) 室蘭土木事業所 (4.5) N社(0.3)	O社 (17.8) I社(0.4)	

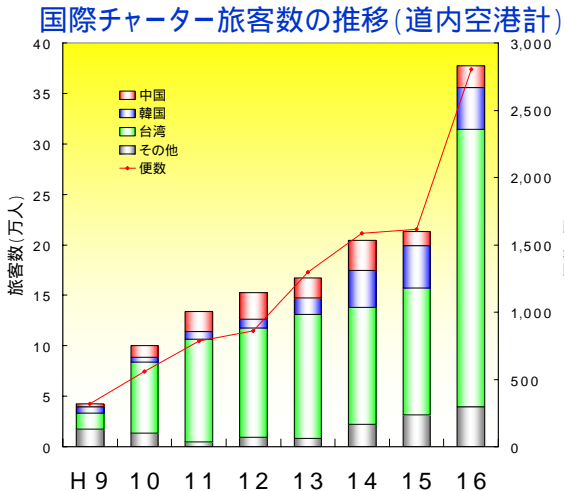
各年度の数字は引渡しベース。また、四捨五入の関係で内訳とは必ずしも一致しない。

3. 北の国際交流圏の形成

- ・観光では、アジアを中心に来道外国人観光客が飛躍的に増加。それに伴い、国際チャーター便も大きく増加
- ・一方、外国人観光客が自由に移動できる環境整備に対するニーズは高く課題は残されている
- ・国際物流では、国際海上コンテナ貨物の増大等への対応が課題



出典:北海道「北海道観光入込客数調査報告書」



出典:国土交通省「空港の利用状況」

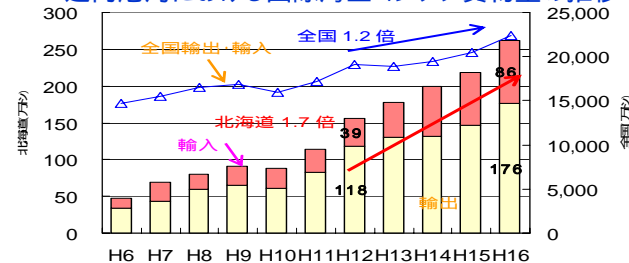
北海道産業の海外展開推移

	単位	平成6年度	平成17年度
北海道の輸出額	億円	1,620	2,636
道内企業の海外拠点数	箇所	133	254

出典:函館税関「北海道貿易概況」、ジェトロ北海道「北海道の海外進出企業リスト」

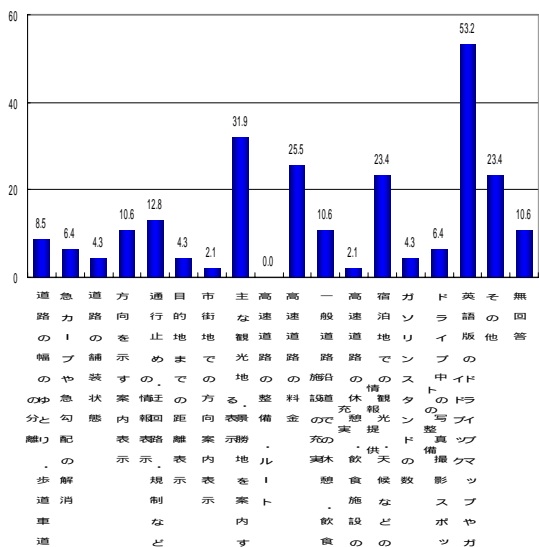
増大する国際物流

道内港湾における国際海上コンテナ貨物量の推移



出典:国土交通省「港湾統計(年報)」

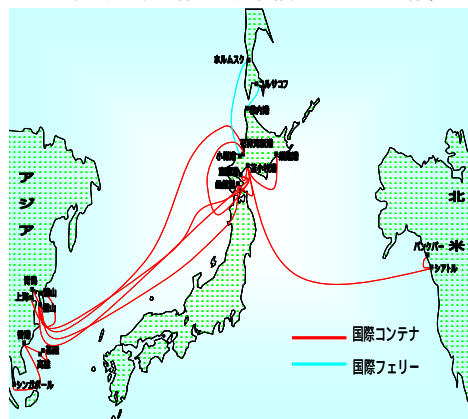
北海道ドライブ観光に関する改善要望



出典:国土交通省北海道開発局調べ

国際物流基盤の整備

北海道港湾と結び定期国際コンテナ航路網



出典:国土交通省 北海道開発局調べ

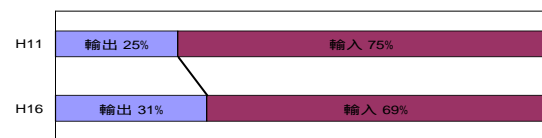
新千歳空港の国際定期航空路線網



出典:各航空会社時刻表

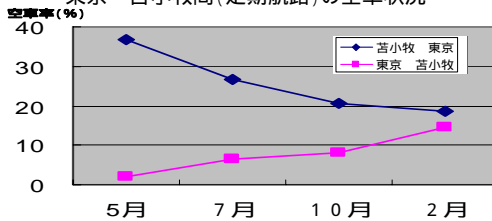
片荷輸送

外貿コンテナの輸出入比率(コンテナ個数ベース)

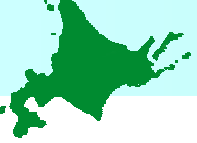


出典:国土交通省北海道開発局調べ

東京～苫小牧間(定期航路)の空車状況



出典:開発土木研究所調べ(平成9年)



- 2 第6期計画の評価

(1) 計画の基本理念・主要施策の進捗状況と評価

2) 恵まれた環境や資源を誇りを持って次世代に引き継ぐ北海道の実現

4 . 自然との共生

・住民・事業者や行政などの連携・協働した自然や環境の保全意識の高まりや、健全な農業経営の維持により、北海道らしい自然と個性的な景観が維持されている

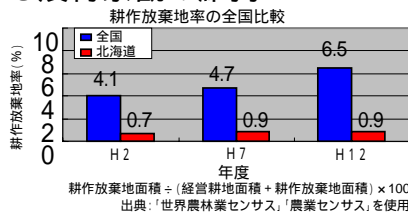
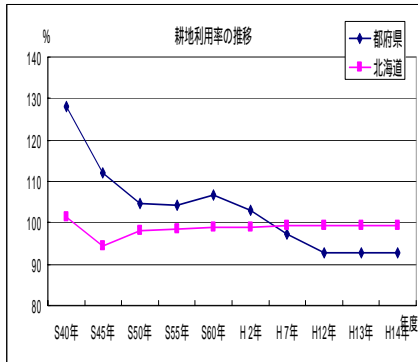
道内のラムサール条約登録湿地

登録湿地名	市町村名	面積	登録年月日
釧路湿原	釧路市、釧路町	7,863	S55.6.17
クッチャロ湖	浜頓別町	1,607	H元.7.6
ウトナイ湖	苫小牧市	510	H3.12.12
豊多布湿原	浜中町	2,504	H5.6.10
厚岸・厚岸川・厚岸湖	厚岸町	5,277	H5.6.10
宮島沼	美瑛市	41	H14.11.18
雨竜沼湿原	雨竜町	624	H17.11.8
サロベツ原野	豊富町、幌延町	2,560	H17.11.8
湯沸湖	網走市、小清水町	900	H17.11.8
阿寒湖	釧路市	1,318	H17.11.8
風蓮湖・春国岳	根室市、別海町	6,139	H17.11.8
野付半島・野付湾	別海町、標津町	6,053	H17.11.8

※ 面積の単位 ha

出典：北海道「北海道環境白書」

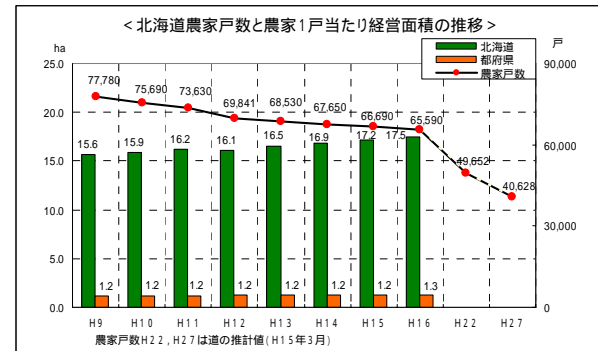
健全な農業経営の維持による農村景観の維持



健全な農業経営等により保全されている景観



美瑛の丘陵

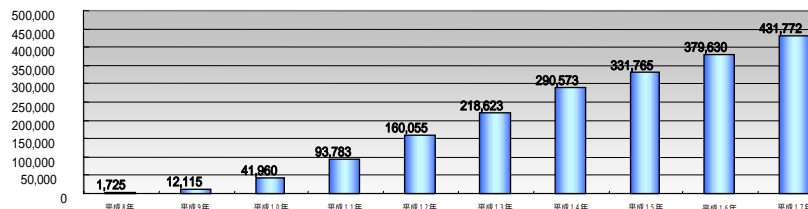


出典：農林水産省「農業構造動態調査」、北海道「地域農業マネージメントの手引き」

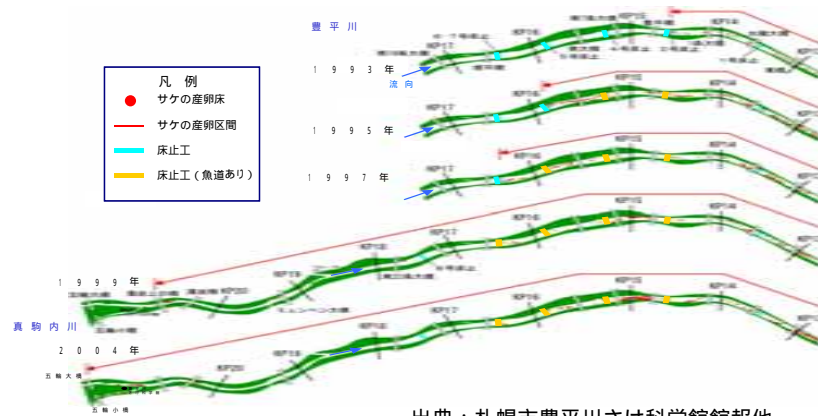
水と緑の連続性の取組み 茨戸川清流ルネッサンス計画



石狩川流域1人1本300万本植樹運動の実績(累計)

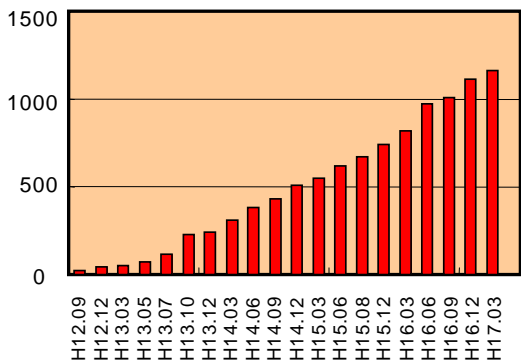


魚道整備による魚類の移動区間の拡大



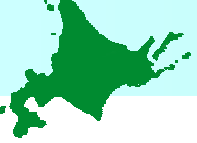
道路景観保全に対する住民意識は向上している

ボランティアサポートプログラム参加団体の推移



出典：北海道開発局資料

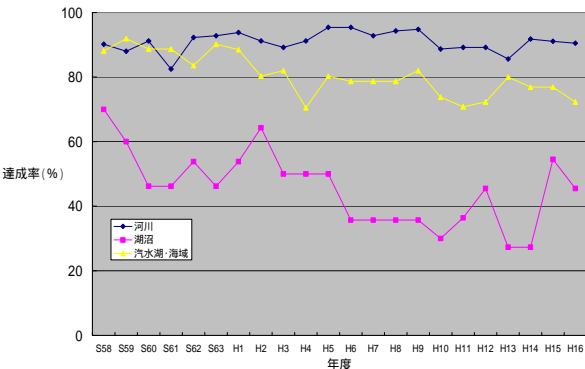
出典：札幌市豊平川さけ科学館報他



5. 環境保全機能の維持

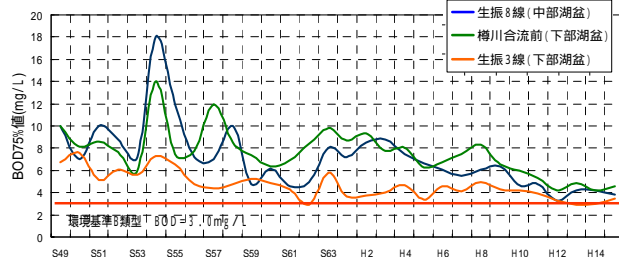
・河川の水質が改善されつつも、湖沼や汽水域等の一部閉鎖性水域の水質は課題を抱えている
・森林の蓄積の増加による、多面的機能の維持、発揮

公共用水域の環境基準達成状況

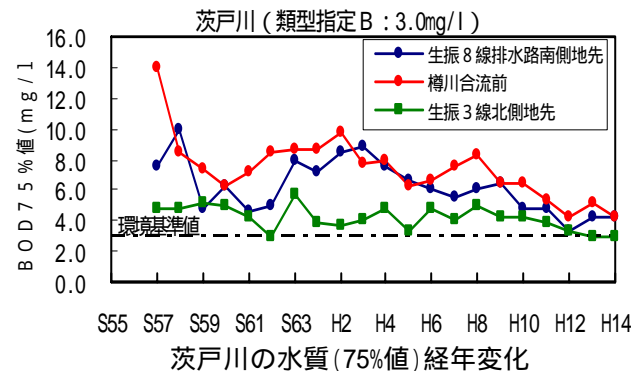


出典:北海道「北海道環境白書」

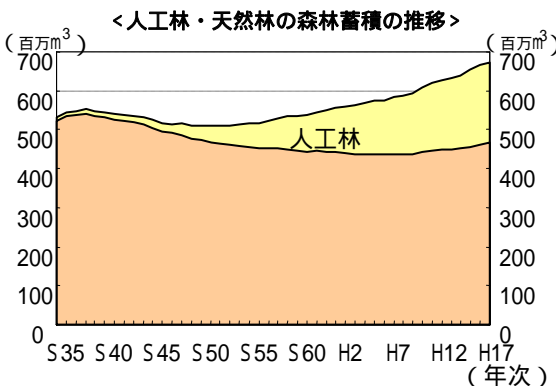
関係機関が連携し流入負荷量を軽減する対策を実施



出典:北海道開発局「公共用水域の水質測定結果」

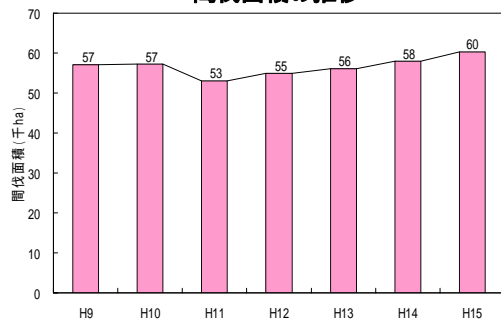


出典:北海道「北海道環境白書」



資料:北海道水産林務部「北海道林業統計」

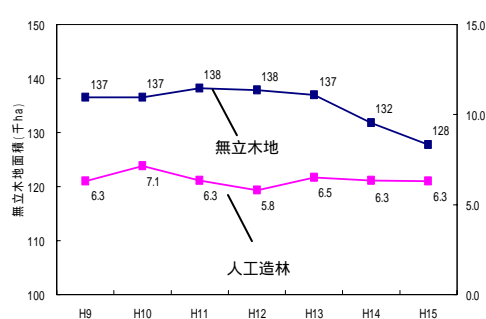
間伐面積の推移



出典:北海道「北海道森林づくり白書」

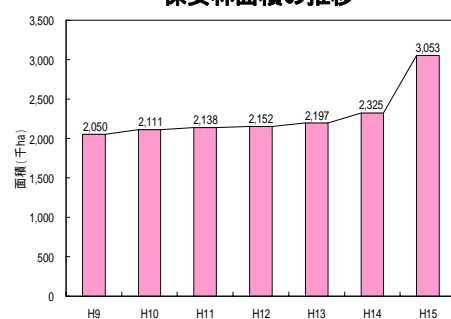
森林の多面的機能の維持、発揮

造林面積と無立木地面積の推移

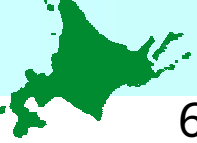


出典:北海道「北海道林業統計」

保安林面積の推移



出典:北海道「北海道森林づくり白書」



- 2 第6期計画の評価

(1) 計画の基本理念・主要施策の進捗状況と評価

2) 恵まれた環境や資源を誇りを持って次世代に引き継ぐ北海道の実現

6 . 循環型社会の形成

- ・自然エネルギーの活用により、循環型社会の形成に向けた先駆的・実験的取組みが進展
- ・各種基盤の整備による環境保全・リサイクル等が進展しているものの、全国水準よりも低水準

【北海道と全国のごみ処理の比較】

(上段:平成9年度、下段:平成15年度)

	北海道	全国
排出量	1,414g/人日 1,254g/人日	1,112g/人日 1,106g/人日
リサイクル率 *1	6.4% 14.0%	11.0% 16.8%
減量処理率 *2	61.8% 71.2%	91.4% 96.4%

*1: 集団回収量も含め、資源化された割合。
*2: 焼却、破碎、資源化等の処理した割合。

【再生資源の利用促進のための施設整備の推進】

	平成9	平成15
資源化等施設(ごみ処理)	107箇所	254箇所
下水汚泥の再資源化	52箇所	88箇所
廃棄物固形燃料化(RDF)施設	2箇所	3箇所
下水熱利用の融雪施設	15箇所	20箇所
リサイクルホ-トの指定	0港	3港

出典:北海道「北海道環境白書」、国土交通省「日本の下水道」より集計

自然エネルギーの活用

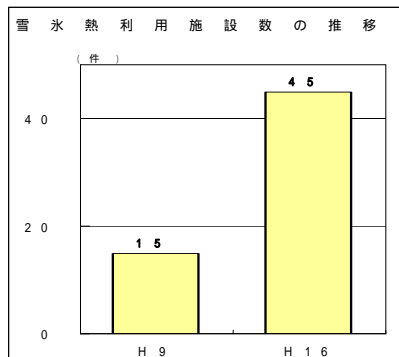
バイオマス資源の賦存量

(単位:万t)

	全国	北海道	シェア
木質系	1,480	241	16.3%
非木質系	13,600	682	5.0%
家畜ふん尿	9100	1,962	21.6%
総計	24,180	2,886	11.9%

出典:「バイオマス・ニッポン総合戦略」(平成14年閣議決定)
北海道農政部「北海道バイオマス関連事業推進計画」(平成17年3月)

出典:北海道「一般廃棄物の排出及び処理状況等(平成15年度実績)について」



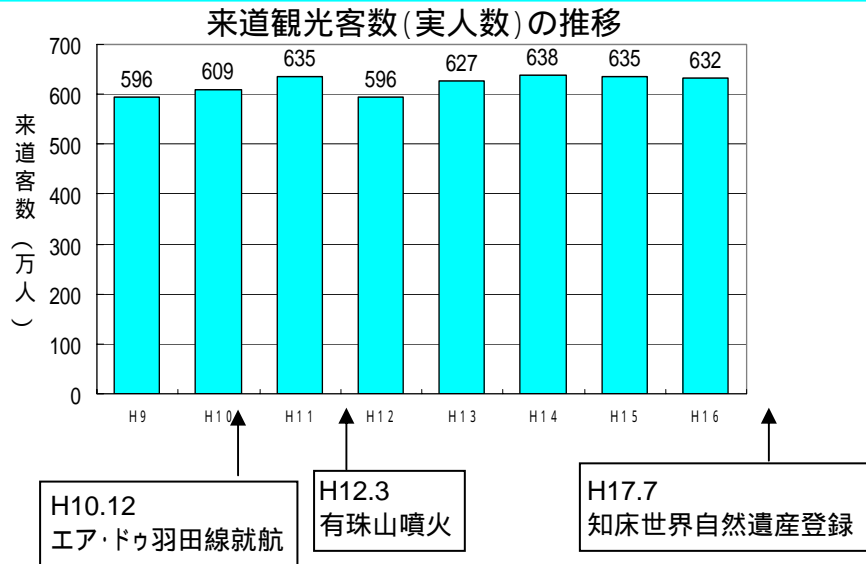
雪氷熱エネルギー利用目的別件数

利用目的	件数
農産物等低温貯蔵施設	28
雪氷冷房	14
農業・畜産	3

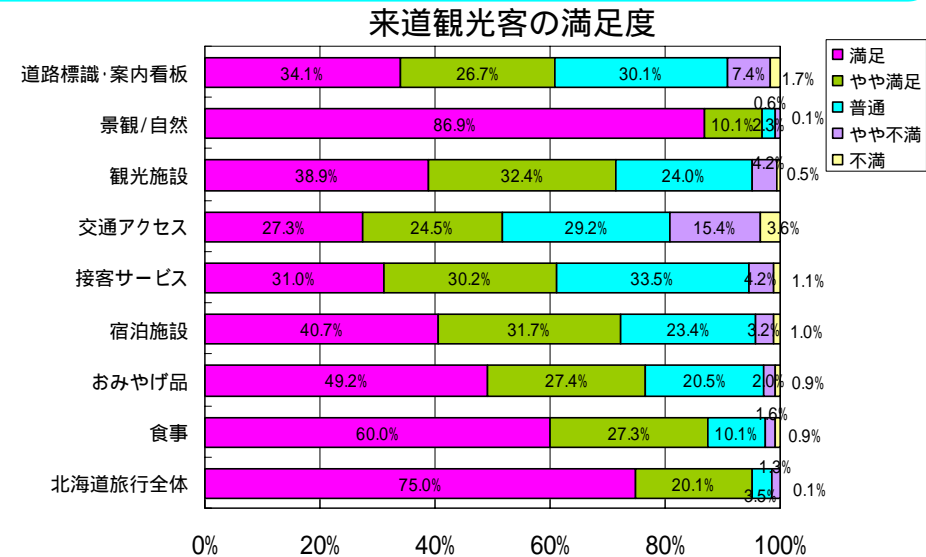
出典:(独)新エネルギー産業技術総合開発機構北海道支部
「北海道新エネルギーマップ2005」

7. 国民の多様な自己実現や交流の場の形成

全国に先駆けた取組み「シーニックバイウェイ」、グリーンツーリズムなど新たな動きが見られるものの、国内観光客数はここ数年横ばい状態

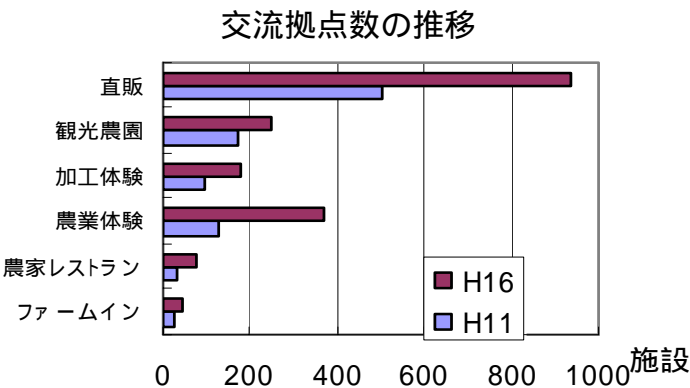


出典:北海道「北海道観光入込客数調査報告書」

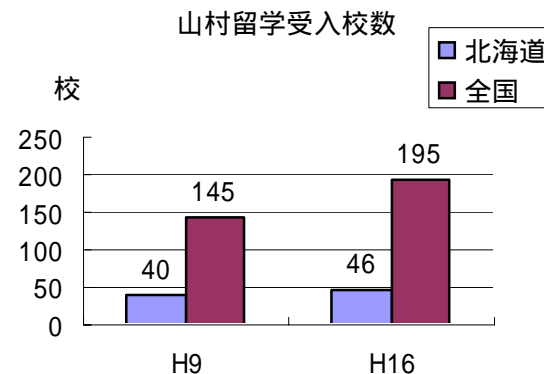


出典:北海道「WEB観光客動態調査(16年9月~17年8月)」

グリーンツーリズム

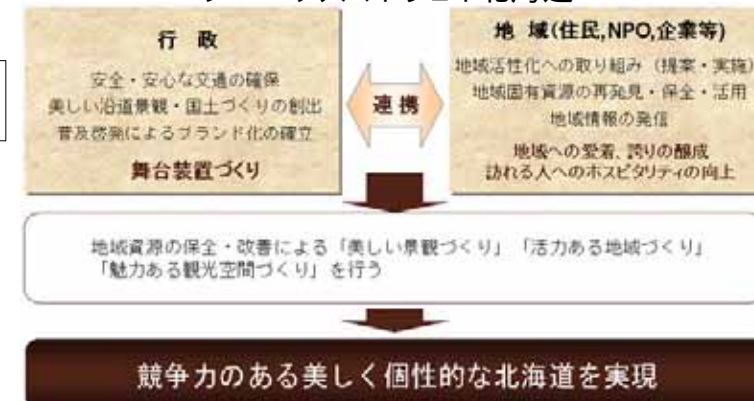


出典:北海道「平成16年度 北海道農業・農村の動向」



出典:(財)育てる会調べ

シーニックバイウェイ北海道



出典:シーニックバイウェイ北海道推進協議会ホームページ

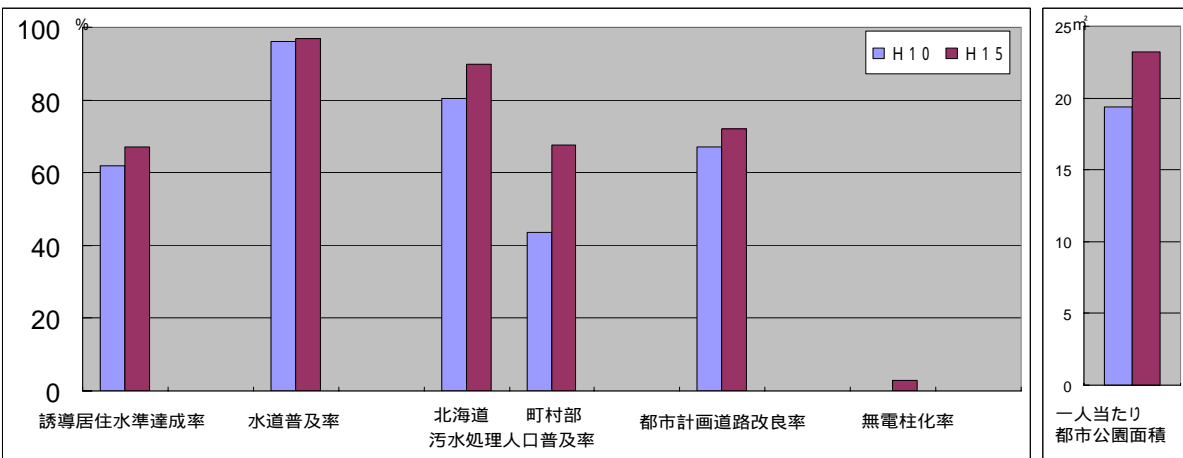


8. 安全でゆとりある生活の場の実現

ゆとりある生活の場の形成がはかられてきたものの、冬季の生活環境改善やバリアフリー化等についてニーズが高く課題は残されている

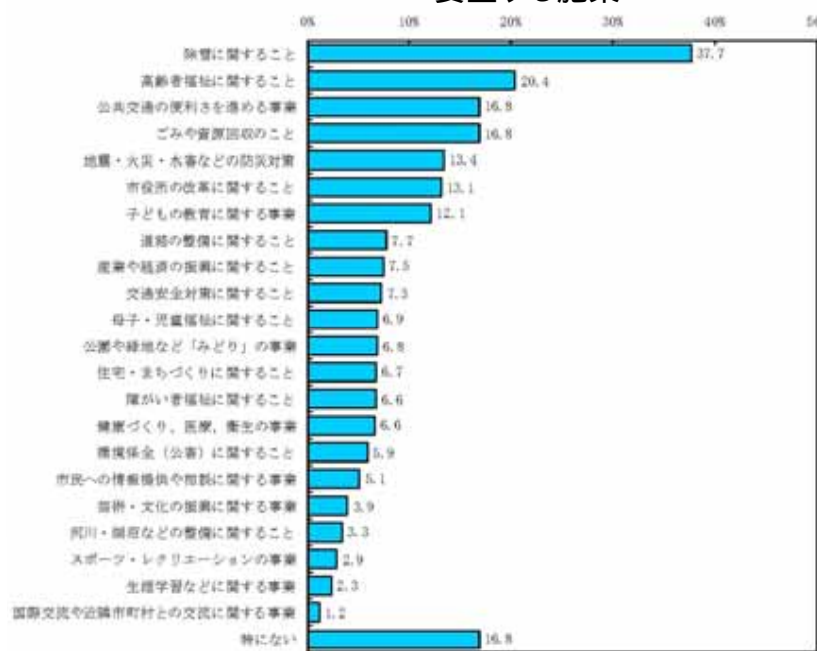
ゆとりある生活の場の形成

都市基盤施設整備の進捗状況



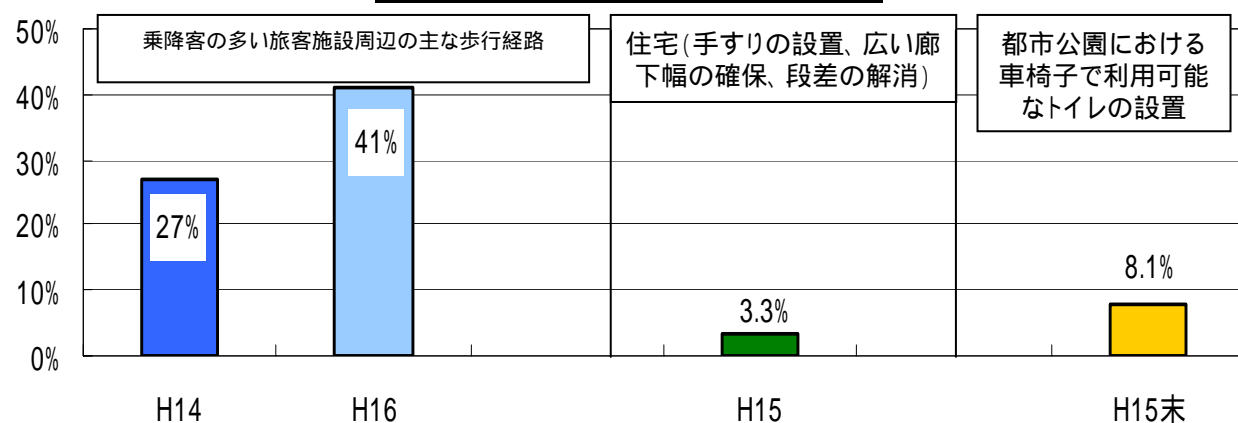
出典：都市計画年報等をもとに北海道局作成

高い冬季の生活環境改善ニーズ 要望する施策



出典：平成17年度札幌市市政世論調査

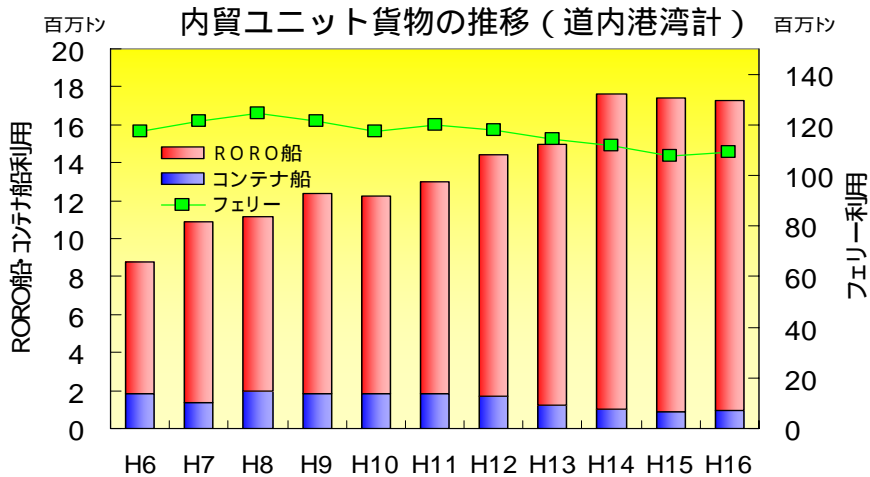
北海道におけるバリアフリー化の状況



出典：国土交通省調べ(歩行経路、都市公園)、総務省「平成15年住宅・土地統計調査」(住宅)

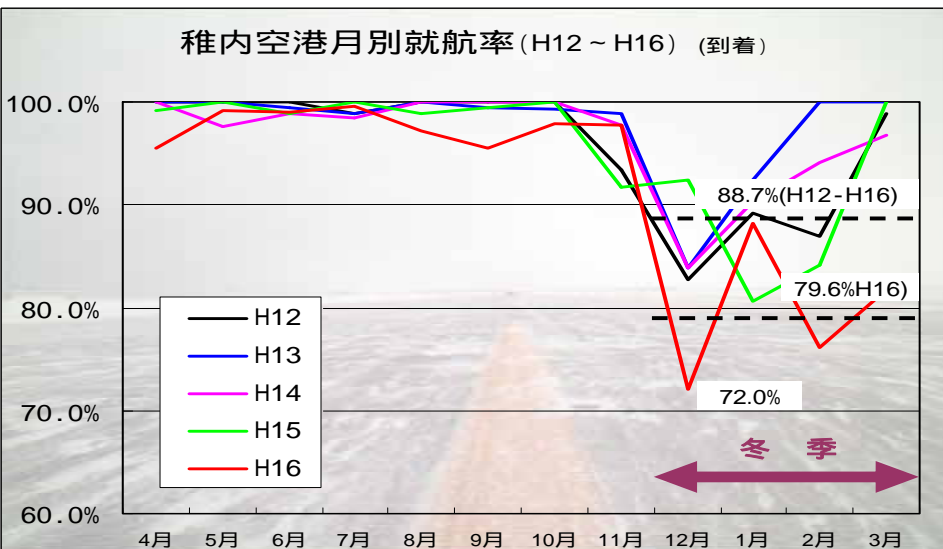
9. 暮らしの多様な選択を実現するネットワーク

港湾、空港の整備が進んだが、内貿ユニット貨物量増加への対応、冬季の安定的な就航の確保が課題

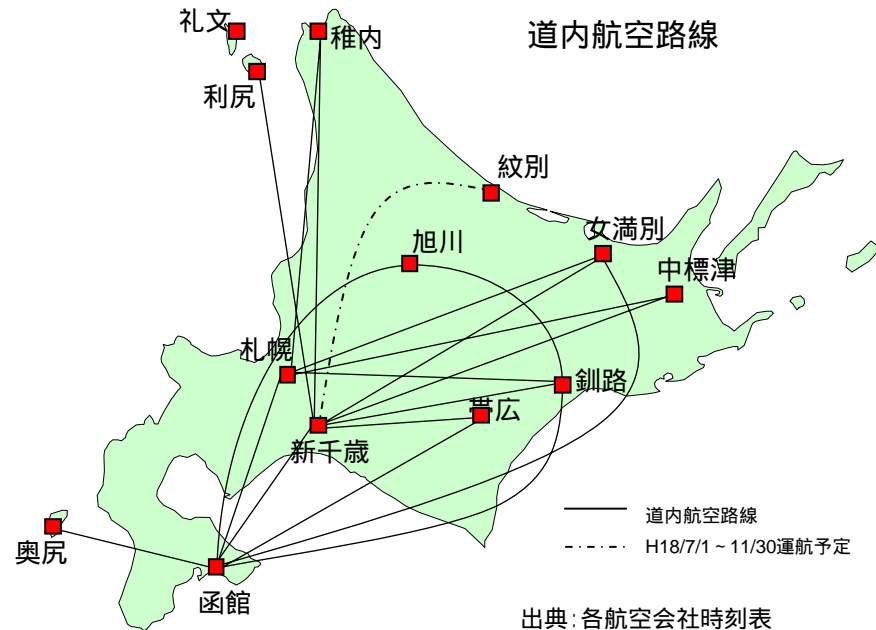


出典：国土交通省「港湾統計（年報）」

冬季の安定的な就航の確保が課題



出典：国土交通省「空港の利用状況」



出典：各航空会社時刻表

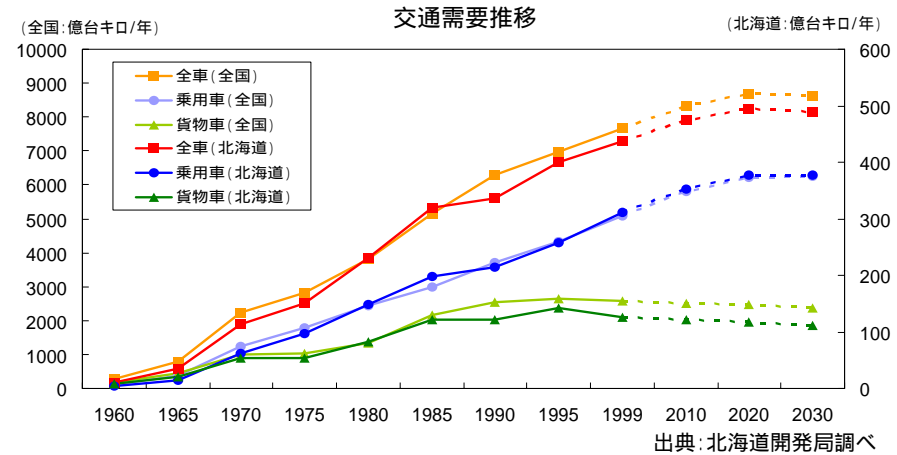
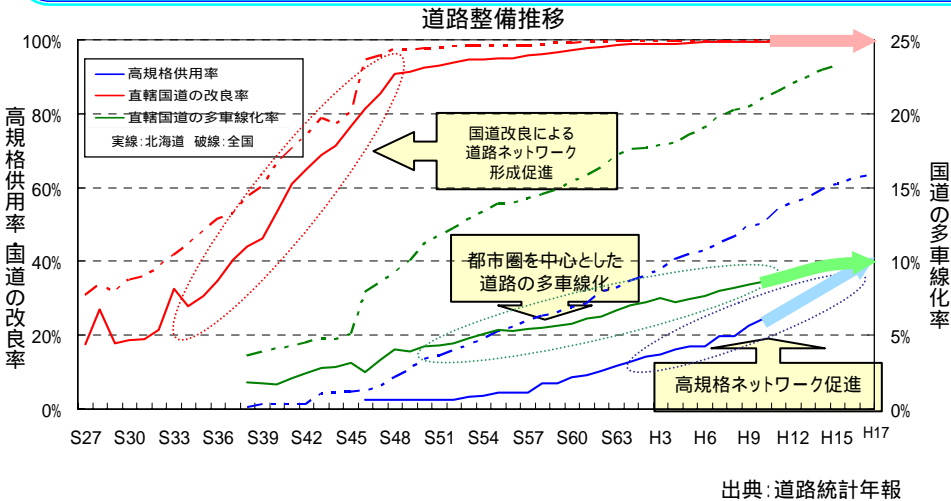
【計画期間内に実施した空港整備等】

	(H9)	(H16)
大型化空港の数	4空港	6空港
ジェット化空港数	9空港	11空港
滑走路の整備 (滑走路総延長)	26,800m	29,900m

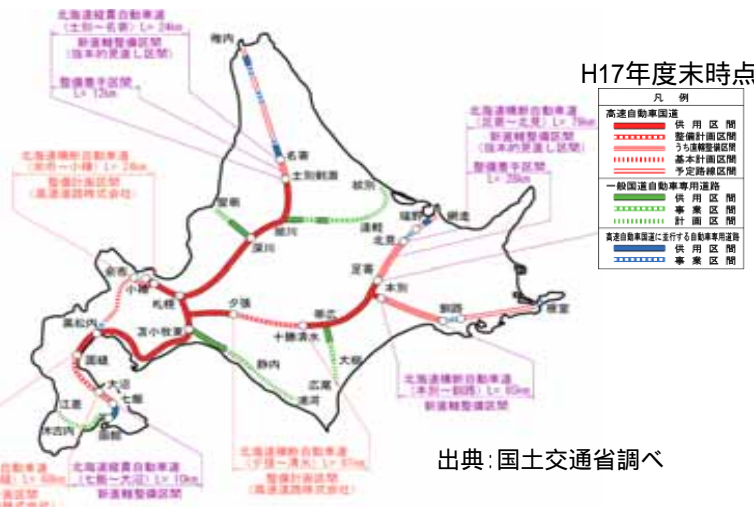
民航定期便が就航する道内13空港において

9. 暮らしの多様な選択を実現するネットワーク

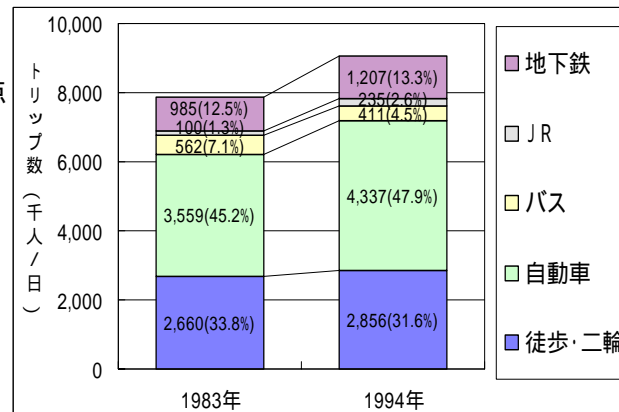
道路ネットワークについては、高規格道路は供用がほぼ倍増したが主要都市間を連絡するまでには至っていない。一般道路は交通需要の増加に対応し道路の多車線化などを進めてきた
 都市の交通については、多くの都市圏において自動車依存が低下していない



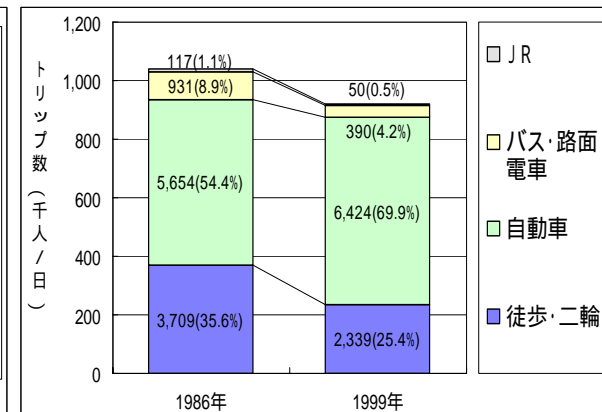
北海道における高規格幹線道路整備状況



道央都市圏の交通手段分担率の推移



函館圏の交通手段分担率の推移





- 2 第6期計画の評価

(1) 計画の基本理念・主要施策の進捗状況と評価

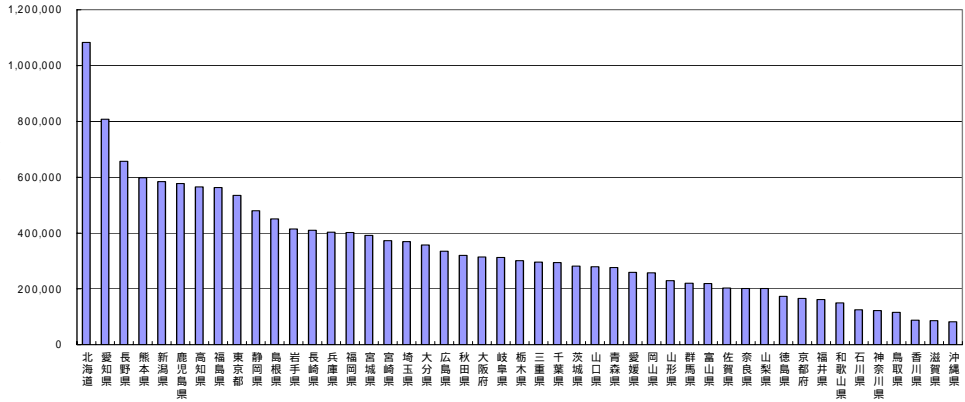
3) 多様な生活や文化を享受できる安全でゆとりある北海道の実現

10 . 安全な地域社会の実現

・防災対策は着実に進められてきたが、依然自然災害等による被害は全国有数であり今後も整備が必要。また、高齢化・人口減少の中で地域の防災力が低下するおそれがあり対応が必要

・交通事故死者数は大幅に減少したが、交通死傷事故は増加傾向にある

全国水害被害額 (S54 ~ H15)

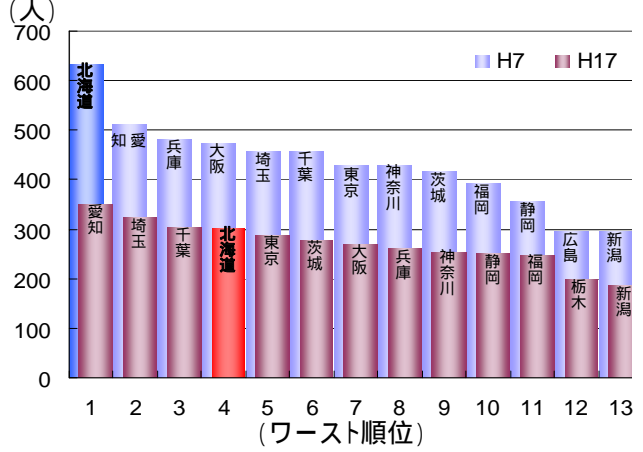


出典: 国土交通省「水害統計」

防災情報共有システム接続状況一覧 (H17.3末現在)

北海道開発局		気象台		北海道		道警	
本局		札幌管区気象台		本庁		本部	
札幌開発建設部	函館海洋気象台	未定		札幌土木現業所	H17年度中予定	その他	未定
石狩川開発建設部	旭川地方気象台			函館土木現業所	火山のみ		
函館開発建設部	室蘭地方気象台	未定		旭川土木現業所	H17年度中予定		
小樽開発建設部	釧路地方気象台			留萌土木現業所	H17年度中予定		
旭川開発建設部	網走地方気象台	未定		稚内土木現業所	H17年度中予定		
室蘭開発建設部	稚内地方気象台	未定		網走土木現業所	H17年度中予定		
釧路開発建設部				帯広土木現業所	H17年度中予定		
帯広開発建設部				小樽土木現業所	H17年度中予定		
網走開発建設部				室蘭土木現業所			
留萌開発建設部				釧路土木現業所			
稚内開発建設部							

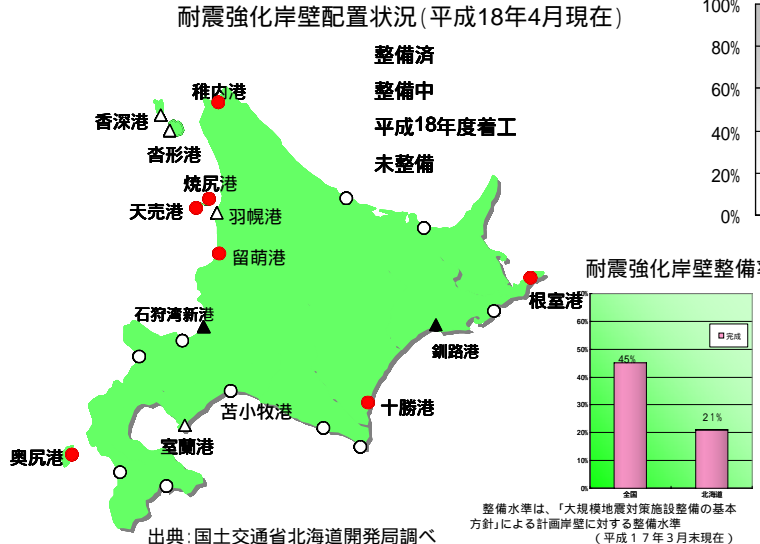
都道府県別 交通事故死者数ワースト順位



出典: 警察庁資料をもとに北海道局作成

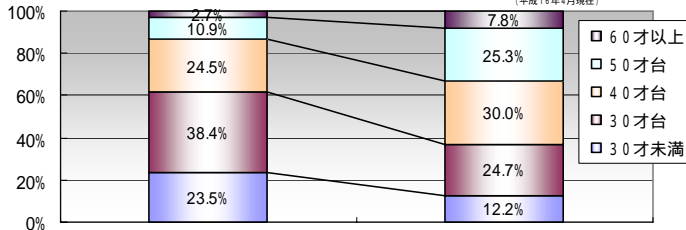
防災対策

市町村: 28市町村に接続済み



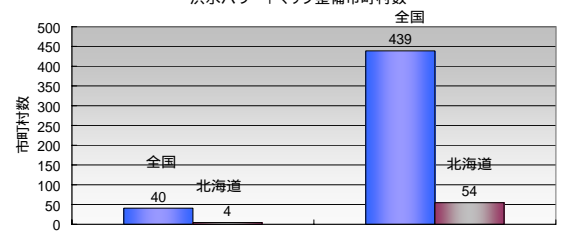
出典: 国土交通省北海道開発局調べ

水防団員年齢別構成表



出典: 北海道開発局資料

洪水ハザードマップ整備市町村数



出典: 河川局ホームページより北海道局作成